

Yamagata

Fruits Stations Network

フルーツ・ツーリズムと
フルーツ・ステーションネットワーク構想
について

フルーツ・ステーション推進プラットフォーム
令和5年度第1回プラットフォーム会議

山形県農林水産部農政企画課

県産フルーツの情報発信について

- 県産フルーツの情報発信の目的

① 果樹農業の持続的な発展

- 「果樹王国やまがた」としてのブランド力を維持向上させ、高品質な県産フルーツの流通・販売・輸出の拡大と農業所得の増大
- 果樹農業の魅力を知ってもらい、労働力や担い手の確保による持続可能な果樹生産を実現

② 地域資源を活かした地方創生の実現

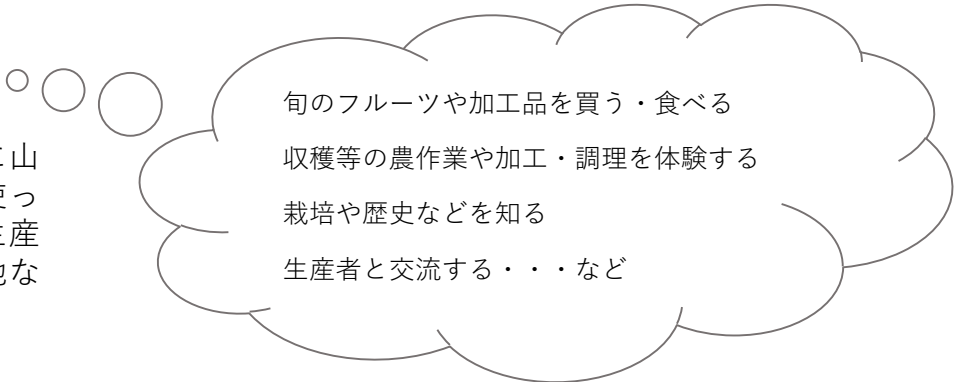
- 観光資源としてフルーツを活かし、年間を通じた観光誘客を図り、交流人口、関係・定住人口の創出を目指す
- フルーツを介して様々な人、業種・業界の結びつきを促すことで新たな価値を生み出し、経済再生と地域の活性化を目指す

山形県農林水産部「さくらんぼを核とする県産フルーツの情報発信実行計画」より

フルーツ・ツーリズムの推進について

フルーツ・ツーリズム

フルーツを消費地で購入するだけでなく、実際に山形県の産地を訪れ、農業体験や旬のフルーツを使ったスイーツなど様々なフルーツの楽しみ方や、生産者との交流等を経験できる、山形のフルーツ産地ならではの観光の仕方



旬のフルーツや加工品を買う・食べる
 収穫等の農作業や加工・調理を体験する
 栽培や歴史などを知る
 生産者と交流する・・・など

フルーツ・ツーリズムの活性化イメージ

① 地域のフルーツを使った観光向けコンテンツが多数存在している。

(例)

- フルーツの収穫等の体験をできる農園が複数存在しており、農園の情報をインターネットで見つけることができる。
- 地域のフルーツを使ったスイーツや料理を出す飲食店が複数存在している。
- 農園や飲食店に立ち寄る観光ツアー（着地型も含む）が造成されている。

② フルーツを始めとする地域の農業・農産物について、地域内外の消費者が学ぶことができる

(例)

- フルーツの種類、旬、食べ方などの情報をリアル・オンラインの両方で発信している。
- 生産者からフルーツの生産についての話を聞く機会が提供される（イベントなど）
- 収穫作業や選果作業の短期アルバイトなど、観光にとどまらない農作業の実践の機会が開かれている。

「フルーツ・ステーション」構想について

フルーツ・ツーリズムの推進に向けては、
果樹園や飲食店をはじめとする**フルーツを楽しむコンテンツ**の充実・魅力向上が不可欠
⇒ **人が集まり、コンテンツを生み出し、洗練させ、発信する「場」が必要**

フルーツ・ステーション

- フルーツを楽しめる様々なサービス・イベントが提供される場
- 地域の特産フルーツについて理解を深めることができる場

- ◆ 設置形態を問わない
 - ・ 既存の施設の機能拡充／拠点施設の新設
 - ・ 設置者・運営者も問わない
- ◆ 地域やアクターごとのオリジナリティを発揮することを優先し、形式的なルールは最低限に抑える
- ◆ 一定の要件を設けて登録や認定を行うことを検討



フルーツ・ステーションに期待される機能

機能の例

ゲートウェイ機能

- フルーツに関するコンテンツや情報によって観光客をひきつけるとともに、さらに地域の事業者（観光果樹園、飲食店など）に誘導する。

連携促進機能

- 地域内外の事業者や消費者の交流・活動の場となり、フルーツを楽しむ新たなコンテンツ（新商品、新規事業）の創出を促進する。

情報集約・発信機能

- 地域のフルーツについての知識・情報を集めて発信したり、フルーツを学ぶイベントを開催したりすることで、地域内外の消費者のフルーツへの理解を促進する。

求められるもの

誘客能力の高い飲食・物販の出店
魅力的なイベントの頻繁な開催
地域事業者との連携体制

トライアル出店設備
交流イベントや勉強会の開催
加工商品試作のための設備

専用ウェブサイトの構築
様々な知識の集約
フルーツのプロとの連携体制

フルーツ・ステーションの創出イメージ①

条件（例）

- 地域に観光果樹園はいくつもあり、収穫期にはにぎわう
- フルーツを使ったスイーツを出すお店がない
- 旬の時期を過ぎると、フルーツの存在感がなくなる
- 旬の時期には道の駅にフルーツが並び、観光客も多いが、旬の時期を過ぎると目玉がなくなる



フルーツ・ステーション案

- 道の駅に特産フルーツを使ったスイーツを提供するカフェを誘致。
- 果樹園からカフェへの出荷体制を構築
- フルーツを使った加工品を開発し、収穫期以外にも周年で提供する。
（旬の時期は生の果実を使った機関限定スイーツ）
- カフェでは、フルーツの旬の時期や観光果樹園の情報を通年で発信し、収穫シーズンの観光果樹園への誘客を促進

フルーツ・ステーションの創出イメージ②

条件（例）

- 様々な品種のフルーツの栽培に取り組んでいる農家がいるが、地域の人にもあまり知られていない。
- 果樹をやりたい若手就農者がいる。
- 活発に活動をしているまちづくり団体がある



フルーツ・ステーション案

- まちづくり団体が主体となって、特産フルーツを活性化させる協議会や特設ウェブサイトを立ち上げ
- まちづくり団体の活動拠点施設で、フルーツに関する農家・飲食事業者、消費者等を対象とするイベントを定期開催

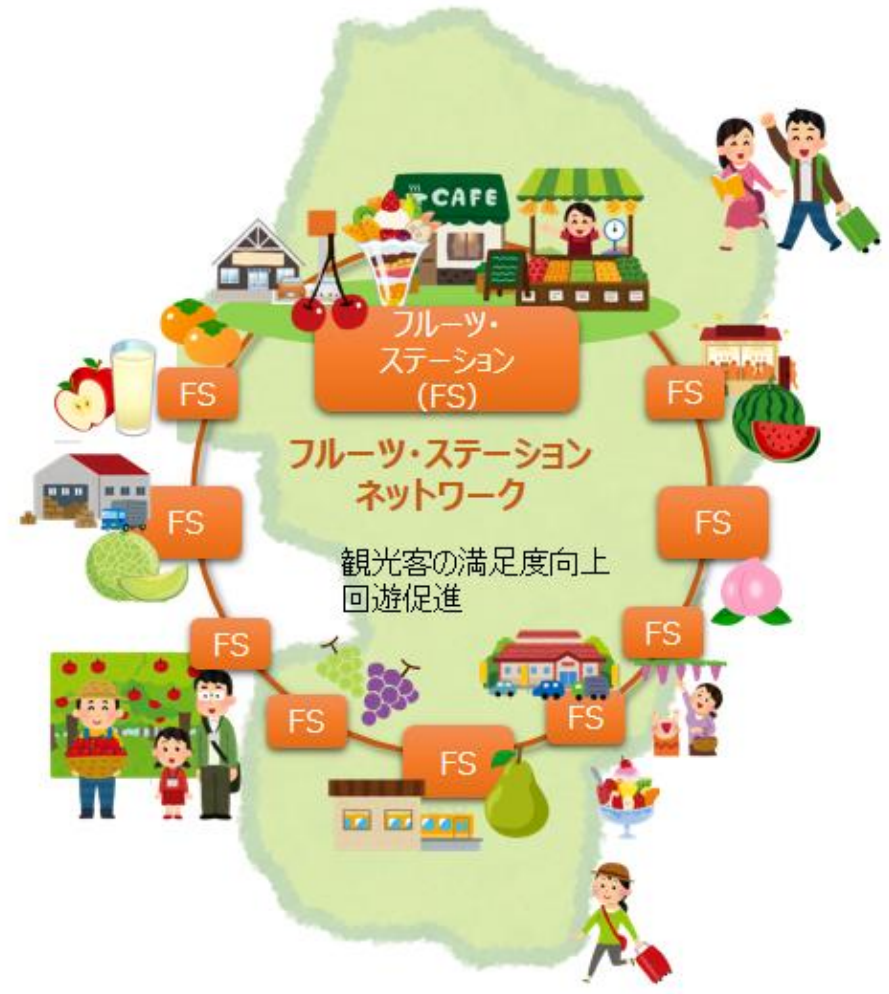
フルーツ・ステーションネットワーク構想

- 山形県内に創出されるフルーツ・ステーションに一貫性を持たせ、ステーション全体を統一的なブランディングの下で発信

⇒個々の産地だけでは難しいスケールの大きい発信力を実現

- ステーション間の連携による誘客施策の実施

⇒県内の周遊や異なるシーズンの訪問を促進

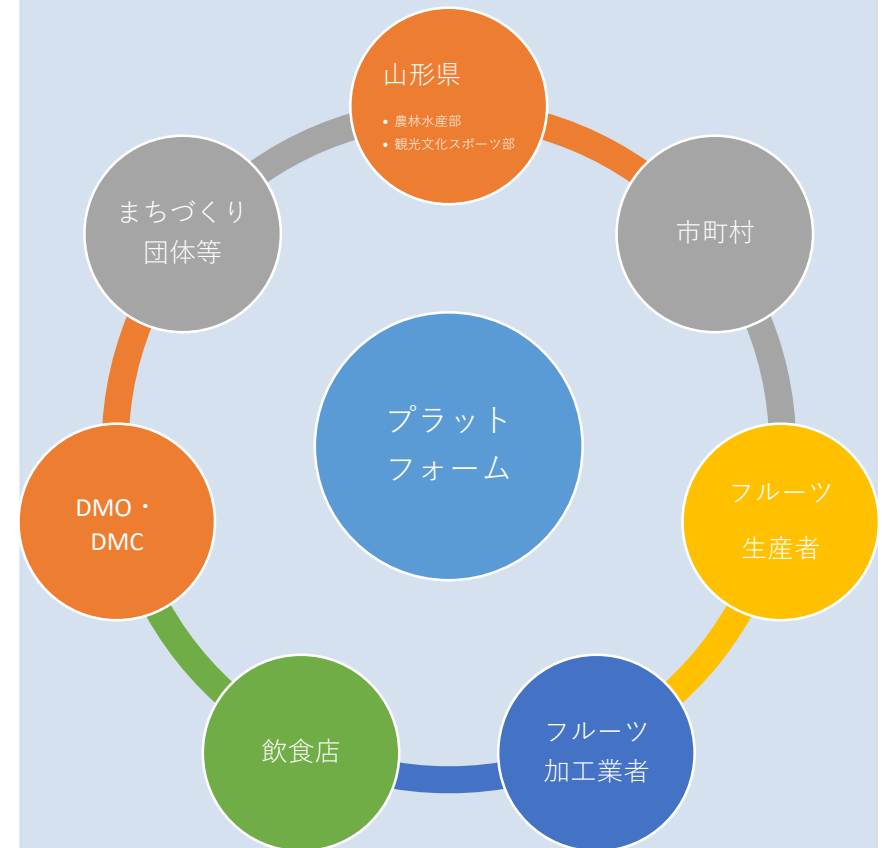


推進プラットフォームについて

ねらい

- 様々な参加者のつながりを作り出すことで、山形県内の各地域におけるフルーツ・ツーリズムの活性化を図る。
- フルーツ・ツーリズムを活性化するための拠点となる「フルーツ・ステーション」のあり方を、地域ごとに検討する。
- フルーツ・ステーションを創出するための事業計画の策定に向けた動き出しを行う
- 各地域に創出されるフルーツ・ステーション同士の連携体制（ネットワーク）を構築するための方法について検討を行う。

構成（想定）



推進プラットフォームの進め方

